

第2回 銀座通り景観整備検討委員会

日時 平成29年9月6日(水) 18:30~
場所 銀座会議室三丁目6階C会議室

【出席者】(敬称略)

[委員]

- | | |
|-----------------------|-------------|
| ・工学院大学 | 倉田 直道 (委員長) |
| ・芝浦工業大学 | 中野 恒明 |
| ・慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 | 小林 博人 |
| ・武蔵野美術大学 デザイン情報学科 | 森山 明子 |
| ・千葉大学大学院 園芸学研究科 | 池邊 このみ |
| ・東京都建設局 道路管理部 | 松島 進 (代理) |
| ・中央区 環境土木部 | 望月 秀彦 |
| ・一般社団法人 銀座通連合会 | 津田 彰彦 (代理) |
| ・国土交通省 東京国道事務所 | 西川 昌宏 |

【議事要旨】

1) カツラ植栽における基盤整備

○植栽基盤の大きさ

- ・必ずしも2m四方でなくても同等の容量があれば問題ない。

○ゆらぎ対策

- ・景観的には地下支柱タイプが望ましい。地下支柱では倒木事例が発生しているため、適切な製品選択を行うこと。
- ・地上の支柱は既製品にとらわれず検討することも考えられる。

○踏圧防止対策

- ・6m 間隔という短いピッチの中で2m 四方の枠が置かれることになるため、景観的なインパクトが大きい。目立つ形状とするか、舗装と同化させるべきか、景観上の方向性を決めた上でデザインを検討するべき。
- ・既製品から選ぶのではなく、銀座独自のデザインを行うことが望ましい。
- ・デザインは、カツラの生育上の影響(石版による地下の蓄熱等)も踏まえて検討を行う必要がある。
- ・デザインは歩行者への影響(女性のヒール)やゴミの混入に配慮が必要。
- ・コストも考える必要がある。(根上がりによる交換も考慮が必要)

2) 高木の配置

○植栽間隔

- ・植栽間隔6mは、生長後にカツラが相互に近接しすぎる懸念もあるが、制約の中で多くのカツラを植栽するためにも透かし剪定など維持管理を工夫すれば良い。
- ・配置は6mピッチを原則とし、沿道店舗のエントランスの正面を避ける等の微修正も検討すべきである。最終的な配置は、沿線住民と調整を行いつつ決定すること。

○占用物件の配置

- ・占用物件は植栽帯と一体化することが望ましい。
- ・花壇はベンチを置くのか、立ち上げるのか等の方向性を先に決めるべき。土を盛らなくても緑を高くする方法もある。
- ・既存の花壇を利用する場合はゴミがたまりやすい等の課題を有する。
- ・花壇を立ち上げる場合は、座ることを前提とするか方向性を決めたいうえでデザインを検討する必要がある。
- ・占用物件があるところに座ることは難しい。
- ・景観的に花壇を立ち上げることが良いか。(できるだけ段差がないほうが良い)
- ・照明灯は当初のコンセプトとして、あまり他の占有物と一体化してもらいたくない。

3) ストリートファニチャー

○整備方針

- ・占用物を隠すために植栽とプランター、ベンチのデザインを一体に考える検討も必要。
- ・ベンチは新しい発想で考えるのがよい。

4) 銀座通りの維持管理

○カツラの維持管理

- ・維持管理については、従業員を含む地域参加に限らず、学生や銀座に来る人などをパートナーとして巻き込み、維持管理に参加してもらい仕組みを作るべきである。この整備を機会として、市民とともにつくる銀座としての方向性を打ち出すとよい。
- ・参加型のアイデアとして、イベントやデザインされたユニフォーム、ゴミ袋などを検討してはどうか。
- ・パートナー制度は東京都・中央区ともに実績を有するので、参考にしてほしい。

5) 今後の進め方

- ・今回残された課題も委員で確認する必要があるのではないかと。
- ・今後は、カツラの植栽を優先して進め、ファニチャー類については、課題として速やかに検討していく。

以上